

# ベトナム・ハノイ市における利用交通手段に着目した歩行空間の利活用に関する研究

下川 裕有希<sup>1</sup>・松行 美帆子<sup>2</sup>・田中 伸治<sup>3</sup>・有吉 亮<sup>4</sup>・安部 遼祐<sup>5</sup>

<sup>1</sup>学生会員 横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 (〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5)

E-mail: shimokawa-yuki-gm@ynu.jp

<sup>2</sup>正会員 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授

(〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5)

E-mail: mihoko@ynu.ac.jp

<sup>3</sup>正会員 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授

(〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5)

E-mail: stanaka@ynu.ac.jp

<sup>4</sup>正会員 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 特任准教授

(〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5)

E-mail: ariyoshi-ryo-gd@ynu.ac.jp

<sup>5</sup>正会員 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授

(〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5)

E-mail: abe-ryosuke-vw@ynu.ac.jp

近年、歩行空間の整備において人間中心の賑わいのある空間づくりが重視されている。ベトナム・ハノイ市の歩行空間は、屋台・露店の出店や店舗のあふれ出しによって、賑わいのある空間が創出されている。特に、移動の利便性や駐輪のしやすさからオートバイ利用者による、飲食や買物行動などが見られている。アジア諸都市における歩行空間の利活用に関する既往研究では、屋台や露店の設置状況や空間特性、経済面に着目しており、利用交通手段に着目した研究は見られない。そこで、本研究では、ベトナム・ハノイ市の歩行空間を対象とし、利用交通手段と歩行空間の利活用の関係について明らかにすることを目的とする。

**Key Words:** *pedestrian space, travel mode, utilization, Hanoi*

## 1. はじめに

ベトナム・ハノイ市の歩行空間は、屋台・露店の出店や店舗のあふれ出しによって、飲食・買物・会話・休憩・娯楽などが生まれ、賑わいのある空間が創出されている。特に、移動の利便性や駐輪のしやすさからオートバイ利用者による、飲食や買物行動などが見られている。

一方で、ベトナムでは経済発展により、手頃な価格で購入できるオートバイが普及し、近年では、自動車台数も増加している。それに伴って、慢性的な交通渋滞や大気汚染などの社会問題を引き起こしている。上記の社会問題を対応するために、ハノイ市では都市鉄道 8 路線の計画が進められており、2021 年 11 月には市内初の都市

鉄道 2A 号線が開業した。加えて、ハノイ市人民委員会は、ハノイ市内における自動車およびオートバイの個人車両の走行を段階的に制限し、2030 年から市内中心部のオートバイの走行を禁止する計画を進めており、2030 年までに公共交通機関の分担率を 50~55% まで引き上げることを目標としている<sup>注1</sup>。今後、ハノイ市における利用交通手段は大きく転換することが予想される。

しかしながら、賑わいのある空間を創出している歩行空間の利活用と利用交通手段の関係は、明らかにされていないのが現状である。

## 2. 既往研究の整理と本研究の位置付け

### (1) 既往研究の整理

歩行空間の利活用に関して、坪井ら(2010)<sup>1)</sup>は、タイ・バンコクを対象として、屋台や露店が街路空間の特性や日常生活と密接に関わっていることを明らかにした。藤原ら(2017)<sup>2)</sup>は、ベトナムを対象として、活気あるバスターミナル周辺地域の賑わいに寄与する空間要素は、沿道建物の業種、街路利活用の多様化による商業施設の多様化、歩行環境の連続性であることを示した。相津ら(2016)<sup>3)</sup>は、ジョグジャカルタを対象として、屋台商の置かれた制度的枠組みと社会関係に着目し、屋台商と歩行空間の利活用の実態を明らかにした。Loc et al.(2016)<sup>4)</sup>は、ハノイ市を対象として、経済面に着目し、屋台商（生鮮食品）が低所得者の生活や食品流通に貢献していることを明らかにした。

買物（飲食品）の店舗選択に関して、Maruyama et al.(2009)<sup>5)</sup>は、ハノイ市を対象として、低価格と利便性（近接性）を重要視する人はインフォーマル市場を選択し、生鮮食品の鮮度や安全性を重要視する人はフォーマル市場を選択する傾向を明らかにした。

利用交通手段選択に関して、Tung(2019)<sup>6)</sup>は、ハノイ市の新興住宅地を対象として、自動車とその他の利用交通手段は、天候や交通量・駐車場の負担を考慮し使い分けしていると述べている。

### (2) 本研究の位置付けと目的

前節の通り、歩行空間の利活用に関する研究は、多く存在している。しかしながら、利用交通手段別に歩行空間の利活用を比較分析した研究は見られない。そこで、本研究は、利用交通手段と歩行空間の利活用の関係について明らかにすることを目的とする。

本研究では、目的を達成するために、

- 利用交通手段によって、歩行空間の利用目的・滞在時間が異なる
- オートバイ利用者は、歩行空間の利活用頻度が高い

の2点を仮説として設定する。

得られた知見は、開発途上国における歩行空間整備において役立つと考えられる。

## 3. 研究手法と用語の定義

### (1) 研究手法

本研究では、歩行空間の利活用者を対象にアンケート調査を実施し、a. その日の歩行空間での行動、b. 普段の歩行空間での行動、c. 普段の歩行空間以外での行動につ

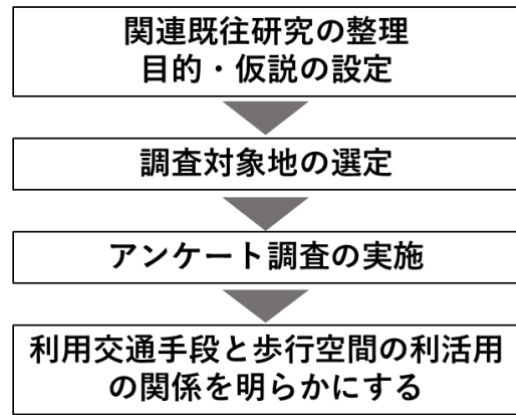


図-1 研究の手順

いて質問し、利用交通手段別に歩行空間の利活用を比較分析する。研究の手順を図-1 に示す。

### (2) 用語の定義

本研究では、歩行空間の利活用を飲食・買物・会話・休憩・娯楽として定義する。店舗形態を店舗型と街路型に分類した。店舗型とは、歩行空間をあふれ出し空間として活用している店のこととする。街路型とは、建物内に店を持たず、歩行空間上で営まれる屋台・露店のこととする。

## 4. 調査対象地

### (1) ベトナム・ハノイ市

ハノイ市は、ベトナムの北部に位置する首都であり、1010年に都を移して以来、政治・文化の中心として栄えてきた。経済成長によって、農村から都市への人口の移動が進み、都市人口は急速に増加している。2020年の人口は825万人<sup>注2)</sup>である。

旧市街地は、商業の街として栄え、歴史的な町並みが保全されている地区である。

### (2) 調査対象地

本研究では、2022年7月に実施した現地調査より、多様な利活用がなされていること、徒歩・自転車・オートバイ・自動車・バスでアクセスできる歩行空間であることを条件に、図-2 に示す3つの歩行空間を調査対象地として選定した。各歩行空間の特徴を表-1、表-2、図-3、図-4、図-5 にまとめる。

旧市街地の外縁に位置する Phung Hung Street と Duong Thanh Street (図-3) は、飲食店や小売店（日用品）が集積しており、市民や観光客で賑わっている。Phung Hung Street の車道を挟んだ向かい側の空間は、駐車・駐輪場 (図-4) として整備されている。

Hai Ba Trung 区内に位置する Ba Trieu Street (図-5) は、飲食店や小売店（飲食物品）が集積しており、街路上で営まれる露店が多く存在する。



図-2 調査対象地

表-1 各歩行空間の店舗形態

		旧市街地		Hai Ba Trung 区
		Phung Hung Street	Duong Thanh Street	Ba Trieu Street
飲食店	店舗型	6	4	13
	街路型	2		10
小売店 (飲食物品)	店舗型			
	街路型			15
小売店 (日用品)	店舗型	1	4	
	街路型			

表-2 各歩行空間の幅員

	旧市街地		Hai Ba Trung 区
	Phung Hung Street	Duong Thanh Street	Ba Trieu Street
幅員(m)	4.19~4.20	3.19~3.52	3.74~4.81



図-3 Duong Thanh Street



図-4 駐車場



図-5 Ba Trieu Street

(3) 調査対象地における利活用者の利用交通手段

目視調査によって、オートバイ利用者や歩行者による歩行空間での買物行動が確認された。オートバイ利用者は、オートバイにまたがりながら買物を行う者もあり、滞在時間は短い傾向が示唆された。オートバイ利用者、歩行者、自動車利用者による歩行空間での飲食行動が観

察された。Ba Trieu Street では、自動車利用者による飲食行動は観察されなかったが、Phung Hung Street と Duong Thanh Street では、自動車利用者による飲食行動が確認された。

しかしながら、目視調査では、歩行空間までの利用交通手段を正確に判断できなかった歩行者が存在する。今後は、正確な利用交通手段や滞在時間などのデータを取得するため、アンケート調査を実施する。

## 5. アンケート調査

本研究では、歩行空間の利活用者を対象にアンケート調査を実施する。表-3 はアンケート調査の概要である。

表-3 アンケート調査の概要

調査対象地	① Phung Hung Street と Duong Thanh Street ② Ba Trieu Street
調査対象者	歩行空間の利活用者
調査項目	1) 個人属性 【性別, 年齢, 職業, 月収, 世帯の保有交通手段, 運転頻度など】 2) 今日の歩行空間での行動 3) 普段の歩行空間での行動 4) 普段の歩行空間以外での行動 【外出理由, 利用目的, 利用交通手段, 同伴人数, 到達時間, 滞在時間, 利用頻度, コミュニケーション相手など】

## 6. おわりに

### (1) まとめ

本稿では、アジア諸都市における歩行空間の利活用の背景および関連する既往研究について整理し、研究目的・仮説を設定した。そして、2022年7月に実施した現地調査での結果を記述した。

### (2) 今後の展開

今後は、前章にて説明したアンケート調査を実施し、

利用交通手段別に歩行空間の利活用を比較分析する。

## NOTES

注1) ハノイ市人民委員会決定 5953/QD-UBND  
(2017/8/24 付)

注2) ベトナム統計年鑑 2020

## REFERENCES

- 坪井善道, 北野幸樹, 渡邊佳英, 秋山慎之介, 渡邊貞文: タイ・バンコクの街路空間利用形態に関する研究 スクンビット地区における屋台・露店の設置状況調査を通して, 日本建築学会計画系論文集, 第75巻, 第647号, pp.93-102, 2010. [Tsuboi, Y., Kitano, K., Watanabe, Y., Akiyama, S. and Watanabe, S.: A study on street space use in Bangkok, Thailand Analysis based on actual state of placement of stalls in Sukhumvit area, *J. Archit. Plann., AIJ*, Vol.75, No.647, pp.93-102, 2010.]
- 藤原伸宜, 中村文彦, 田中伸治, 三浦詩乃: バスターミナル周辺地域における賑わい形成要因と空間要素に関する研究, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.73, No.5(土木計画学研究・論文集第34巻), I\_909-I\_919, 2017. [Fujiwara, N., Nakamura, F., Tanaka, S. and Miura, S.: A Study on the Mechanism of Vibrancy Affected by Spatial Characteristics of bus terminals and surrounding area, *Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser.D3(Infrastructure Planning and Management)*, Vol.73, Issue5, I\_909-I\_919, 2017]
- 相津七海, 志摩憲寿: ジョグジャカルタ・マリオボロ通りにおける屋台商の営業実態とストリート空間の利活用に関する研究—ストリート空間の総合的マネジメントに向けた基礎的調査—, 都市計画論文集 Vol.51, No.3, pp.1197-1204, 2016. [Aizu, N., Shima, N.: A study on the vendor business and the space usage/utilization at Malioboro street, Yogyakarta-As a basic survey toward comprehensive street management-, *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol.51, No.3, pp.1197-1204, 2016]
- Nguyen Thi Tan Loc and Paule Moustier: Toward a Restricted Tolerance of Street Vending of Food in Hanoi Districts: The Role of Stakeholder Dialogue, *World Food Policy*, Vol.2, Issue2/Vol.3 Issue1, Fall 2015/Spring 2016
- Masayoshi Maruyama and Le Viet Trung: The nature of informal food bazaars: Empirical results for Urban Hanoi, Vietnam, *Journal of Retailing and Consumer Services* 17 (2010), 1-9
- Tran Ming Tung: SUSTAINABILIZATION OF HANOI MOBILITY APPROACHED FROM NEW RESIDENTIAL AREAS: WILL IT BE A CITY WITHOUT MOTORBIKE?, *Journal of Science and Technology in Civil Engineering NUCE*, 2019.13(1), 89-99

(Received ??, 2022)

(Accepted ??, 2022)

## A STUDY ON THE PEDESTRIAN SPACE UTILIZATION IN HANOI, VIETNAM FOCUSING ON TRAVEL MODE

Yuki SHIMOKAWA, Mihoko MATSUYUKI, Shinji TANAKA,  
Ryo ARIYOSHI and Ryosuke ABE